

# 令和元(2019)年度 学力向上検証委員会のまとめ

## 1 目的

とちぎ学力向上推進事業（とちぎっ子学力アッププロジェクト）を検証し、県教育委員会が実施する学力向上対策の改善に資する。

## 2 期 日

- ・第1回 令和元(2019)年 8月 28日(水)
- ・第2回 令和元(2019)年 12月 9日(月)
- ・第3回 令和2(2020)年 2月 3日(月)

## 3 会 場

県庁舎北別館会議室、上三川町立上三川小学校

## 4 学力向上検証委員

11名(大学教授、県小学校長会代表、県中学校長会代表、県高等学校長会代表、県小学校教育研究会代表、県中学校教育研究会代表、市教育長部会代表、町教育長部会代表、県PTA連合会代表、総合教育センター所長、教育事務所長会代表)

## 5 主な意見

### (1) 学力向上指導員派遣事業について

- 学校全体として分析力が求められている。学力向上指導員は、調査の分析を通して、学校の強みを明確に示してくれるとともに、検証改善サイクルの運用など今後の取組について助言してくれる。複数年継続して、第三者的に学校に関わってもらうことは、とてもありがたい。
- 市町の主体的な取組に対して、県ができる支援を検討し、本事業の更なる充実につなげることが大切である。

### (2) 学力向上推進リーダー配置事業について

- 学力向上推進リーダーによる授業後のきめ細かな支援は非常に有効である。特に、若い教員に対して、授業づくりの段階から関わってもらうことはありがたい。
- 今後とも、配置校において、学習指導主任と学力向上推進リーダーの役割を明確にし、各学校における学力向上に向けた組織的な取組を強化していくことが大切である。

### (3) 学力向上通信について

- 今年度は特に、配布時期を工夫したり、タイムリーな内容を掲載したりするなど改善が見られた。今後も、学校の先生方に活用してもらえる資料となるよう、定期的な情報発信をお願いしたい。

### (4) 保護者への啓発について

- 学校では、県が作成しているリーフレットを保護者会等で説明を加えながら活用している。また、保護者に対して、各市町や各学校で取り組んでいる好事例を広く伝えることができるよう、引き続き様々な手段で情報を発信してもらいたい。

## 6 委員長の総括

本プロジェクトの充実に向け、県全体で調査結果を活用し、検証改善サイクルを一層確実に運用していくことが重要であることから、各種学力調査や学力向上改善プランの活用状況など各市町及び各学校における具体的な取組に関する意見を多くいただいた。

学力向上指導員派遣事業と学力向上推進リーダー配置事業により、課題解決に向けた組織的な取組や教員の授業改善に向けた取組の充実が図られていることが確認できた。学力向上指導員と学力向上推進リーダーのそれぞれの役割を明確にし、相乗的に効果を発揮できるようにしていくことが必要である。

今後とも、県教育委員会は市町教育委員会と連携し、本事業に関わる施策の実効性を高めることで、児童生徒一人一人の学力向上に向けた取組の改善・充実を図ってほしい。